

**■ 総会報告 事務局長 田代 周**

10月23日(水)、グレースバリ・横浜ハマボールイアスにおいて会員44名の参加をもって開催されました。

議案は以下の通りです。全て承認されて、令和7年度(2025年度)の活動が正式にスタートしました。ここでは速報として一部内容を記します。

全体の報告は後刻、別紙にて行います。

【報告】

報告1 令和6年度 活動報告

報告2 令和6年度 会計収支決算報告

報告3 令和6年度 会計監査報告

【議案】

第1号議案 令和7年度 活動方針に関する件

第2号議案 令和7年度 予算案に関する件

第3号議案 令和7年度・8年度役員改選の件

第4号議案 規約改定の件

- 第3号議案で承認された役員は以下の通りです。

【会長】新:宮本 信 (前:高石勝巳 顧問に就任)

【幹事】新:浅見憲一 (前:大高光蔵 顧問に就任)

【会計監査】新:金子清一 (前:白岩仙一 退任)

ここに記載されていない従来の役員は継続で承認

- 規約改定の主内容「役員に新しく顧問を設置する」

活動テーマに「組織の拡大、活性化」があります。会員の平均年齢が高齢化する中で、新規会員の加入促進は重要なテーマとなります。その為にはシニアとして若手(ヤングシニア)の加入を促さなければなりません。役員も宮本新会長を含む70歳以下のメンバーが4人に増え、新たな体制をもって組織の維持拡大を図っていきます。会員の皆様のご理解とご協力を是非お願いします。

ところで、会場の「グレースバリ」はコロナ禍での中断などを除き毎年総会を開催してきた場所です。ここは映像システムが充実しており、活動報告や方針などをビジュアルで紹介できる場として従来から利用してきました。

昨今の諸物価高騰の折、会場使用料も実質的に値上げされて、最低基準額が設定されてしまいました。小紙9月号の最後に「参加者50名を超えないと不足人数分の支払いが求められる」と書いて多くの参加を求めました。皆様のご理解が得られたのか、参加者は一時50名に達しました。

しかし、当日までに数名の方から「体調不良」などの理由で不参加の連絡があつて減員となる中、一方でドタサン(連絡なしで当日参加)の方もあり、事務局としては困惑やら救われたというような複雑な気持ちでした。しかし、一人でも多くの参加者を得られたことはうれしいことです。

総会出欠ハガキの返信率は81%です。会員の皆さまからの近況報告などが記されたものも多くありました。10月1日から郵便料金の値上げがあり、回答期限が過ぎたにもかかわらず差額22円分の切手が貼られて届いたハガキに「参加」と書かれていたのは事務局として有難いことでした。

シニアクラブの年間活動はほぼ毎月のように何らかの企画を推進しています。只、参加者の顔ぶれがほぼ一定となっていますが、この総会には顔ぶれも多様で初参加となる方もいました。

今まで総会に参加されたことの無い方も来年は是非参加してもらえよう期待しています。

■ Online 会合報告 (2024. 10. 24)

今回の会合では総会報告を兼ねて開催することにしていました。



しかし、前日の総会参加者と顔触れが変わらず、総会で使用した資料を再度紹介することは省略とし、総会で提示した内容に関連して昨今の闇バイトによる事件や、健康問題などに関する話し合いとなりました。引き続き宮田さんからこの秋、地球に最接近していた「紫金山・アトラス彗星」の撮影について紹介がありました。<http://jvc-senior.com/20241013comet01.pdf> 参照

この写真は地元紙のDigital版にも載ったそうです。<https://www.shimotsuke.co.jp/articles/-/982532?rankinghour> 肉眼では見つけにくく、勘も働かせての撮影だったとのこと。是非アクセスして見てください。

■ 2024衆議院議員選挙結果

10月27日に投開票された総選挙は与党の大敗と言う結果となりました。結果詳細は次を参照ください <https://www.nhk.or.jp/senkyo/database/shugiin/>

次の表は選挙前と新しい議席数を示しています。

	結果	従来	増減
自民	191	247	-56
公明	24	32	-8
与党	215	279	-64
立民	148	98	50
維新	38	44	-6
共産	8	10	-2
国民	28	7	21
他	28	27	1
野党	250	186	64
計	465	465	

従来、自民・公明両党の与党が議席の過半数233を大きく超えて議会在野が運営されてきました。今回の選挙では自民党大物議員と言われた人や公明党党首の落選もあり、与党過半数割れとなりました。連立政権をどのように組んでいくのか見ものです。

先月号で自民は横綱、立民は平幕と書いていますが、この結果で自民は国民の厳しい審判により横綱降格、立民は一気に大関昇進という所でしょうか。本来、横綱降格はありえず引退となるべきなのですが、充分なる反省のもとに気を引き締めてことに当たってほしいところです。

大関昇進の立民 野田党首は「政権交代」を訴えてきましたが、その先はまだ不明です。主義主張が様々な野党の数が増えている中でどうまとめるのか、また「政権交代」が目的となっていないか問わなければなりません。目的達成がゴールではないことは明白で、そこがスタートです。かつての民主党が政権をとった後の党首の迷走で、その後の自民独走の基となったことを認識すべきです。私たちはしっかりとその行く先を見つめています。

■ 選挙制度いろいろ

米国や英国などのように日本でも二大政党政治を期待する声があります。政権交代の可能性があれば与野党間は常に真剣勝負となります。現在、衆院選で採用される「小選挙区比例代表並立制」では選挙区内で当選できなくとも「重複立候補」であらかじめ決められた政党内の優先順位や選挙区内の惜敗率(当選者の得票との僅差度)で当選することもあります。これにより選挙区内のもう一つの多数票が救われ、いわゆる死票の発生を抑える効果もあります。次表は政党別得票数(単位:万票)

	今回	前回	増減
自民	1460	1990	-530
立民	1160	1150	10
国民	620	260	360
公明	600	710	-110
維新	510	810	-300
れいわ	380	220	160
共産	340	420	-80
参政	190	-	
保守	110	-	
社民	90	100	-10

立民の総得票数は前回に比べて10万票ほどしか増えていませんが、議席は50も増えました。前は死票が多かったのでしょうか。また、小選挙区内では当選者が0でも比例のみで何人もの当選者を出した党もあります。今回のように「政治と金」の問題など、何らかの風が吹くと、選挙結果は大きく変わることになります。

▶ 話は変わりますが、今年6月から7月にかけてフランスの総選挙が行われました。



ここは2回選挙制です。小選挙区制で1回目の投票で50%以上を得た候補はここで当選決定となりますが、50%未達の候補ばかりの時は上位2人による2回目の投票が行われます。

日本でも9月におこなわれた自民党や立民党の代表選と同じ方法ですが、1回目の結果が2回目の投票行動に大きく影響を与えることとなります。

フランスでは1回目の投票では極右政権誕生かとみられましたが2回目で現政権が巻き返しを図りました。全国民を対象とするこの方式は二重手間でも時間や金がかかるのが難点ですが民意を広く反映させた結果を得ることができます。



▶ ところで米国大統領選挙はずいぶん

時間と金をかけてきたようですが愈々最終段階。政策論争よりも非難合戦が繰り返されてきました。この選挙結果は世界を大きく動かすこととなります。

■ 事務局から

・ 報告の通り、第23回総会にてシニアクラブの新役員体制で今年度の活動がスタートしました。役員顔ぶれは <http://jvc-senior.com/page2.html> をご覧ください。
・ 11月開催の行事が目白押しです。巻頭の写真は一昨年の円覚寺の紅葉です。今年も今月29日に円覚寺での座禅・写経の会が催されます。今からでも参加希望の方はお申し込みください。 事務局 田代 周